

1979年6月号

1979年6月5日発行(毎月1回5日発行)

No.38

あふあて

発行人

発行所

定価 100 円

振替口座

あふあての会

さようなら

私たちはそのことばを

あいさつとして教えられた

先生さようなら

みなさんさようなら

そして歳月が過ぎ大人になっても

言い続けてきたさようならと

だけどその本当の意味は

口に出してはなかなか言えない

日々の儀礼としてのことばの軽さ

再会を拒むときのあまりの重さ

使い分けてきた今でもいつも

のがれの時にも

そのときのさようならはことばではなく

吐き捨てる息とともにこみあげる

それが本当のさようなら

詩 細川

逐次刊行物

昭 54.7.16

国立婦人教育会館
情報図書室



あんふあんて 私たちの場合

<東横線グループ>

=グループの曲り角=



東横線グループの現状をまとめて報告したいと思います。五十年十二月に発足、当初のメンバー四名、途中入会四名、五十四年三月入会三名、計十二名(子供十七名)で構成している。発足してより昨年七月までは週一・二回の共同保育と月一度の例会を基本にして来た。ところが昨年七月末に横浜市港北区より乳幼児学級を自主的に運営してみないかという話があり、これを受けて、昨年十一月より本年三月まで計十回の学級を区と共催した。

う効率の悪いものだった。しかしこのように目的のある討論を重ねて準備していくことや自分の考えをまとめたり、文字に書いてみたりすることから長らく遠ざかっていた者達にとって、この効率の悪いさこそふさわしく、メンバーの多くがこの準備段階こそ自分自身の考えがどこにあるかを知ることができ、又他のメンバーと合宿などを通じてより触れあうことのできた貴重な期間と考えている。プログラムは乳幼児学級と制限があるが、乳児のしつけ、育児についての学級は他にも機会があるもので、我々がやるからには当然、母親の生き方にスポットを当てたいと全員一致で決めた。さらに子供達が成長するに従い地域の中で育つということの大切さを感じはじめたので、もっとこの地域での人間関係の輪を大きくしたいという切なる希望もあった。呼びかけアビールとして「母と子の現在と未来を考える。共にいきいきと生きることを目指して。今、若い母親は何に行きづまっているだろうか」と大きく出て、プログラムは以下の通りとした。

12/8 各自の助け合いの状況など話し合い。
班ごとのまとめ
講演「今、若い母親のおかれている状況は」 講師 河野喜代美氏(あごら編集部)
(講演約一時間、その後講師と共に話し合い三十分)
12/12 「前回の講演を聞いての話し合い」
伊藤雅子著『女の現在』を参考に女のライフサイクルを考える。
1/26 講演「新しい保育の試み」 講師 古知 氏(あんふあんて事務局)
講演「イスラエルと中国で子育てを見てきて」 講師 山内協子氏(日中幼児教育研究会会員)
(我グループのもと会員であり、三人の子を持つ専業主婦でもある講師の生き方を基本にして)
2/23 班ごとに分れ学級全体のまとめ
3/9 託児制を含めて、しめくくりの話し合い。今後について。

学級は0才よりの託児付きとし、託児係には横浜市乳幼児センター主催のボランティア講座終了者の組織の全面的御協力をいただいた。託児付きの市民自主講座は横浜市では初めてということで、区担当職員の全面的協力があり、十月下旬完成したばかりの日吉地区センターのプレイルームを利用できたのは幸せだった。しかし傷害保険、施設面の不備、施設利用条件など、食い違いやトラブルがあり憤慨することは多々あった。

あんふあんてに会員であるあなたは役所の公

報に載っている乳幼児学級生募集の文に心ひかれますか? 私達が「まだ見ぬあなた」と心熱くして待った十九名の一般の参加者の平均像は「託児もあるというかなので試しに参加してみたい。朝から晩までベッタリです。し離れてみたいし、何か役に立つことが聞けるかもしれない」といった感じで、自力で歩きだしている人は一・二名といったところだった。第四回目で河野さんが精神的自立の大切さを説き、子供に足をすくわれないよう、しっかりと自分の足で立ちなさいと独特の早口で講演をして下さったあとから話し合いが活発になり、働くことについて、子育て後の計画、夫婦の関係、子供の育て方(性別の意識無く生活人としての基本を身につけた子供に育てるには)などについて多くの人が発言して司会者も苦勞知らずに進行していった。しかし、テープを聞き直してみると皆口々に「私は…… 私は……」と言いたてて、他人の話に耳を傾け、その上でかみ合わせた発言をして話を発展させていくという討論になっ

した初体験がいろいろあった。強力なリーダーのいない私は代りばんこで対応していくことで、各人にとって良き体験となった。メンバーの中にはこの学級を期に自分の気持ちを再確認して、保育園へ子供を託したりして細々ながら仕事を始めた者が三人いる。

託児の方にも事故も無く無事、学級を終了して、出席率平均約六十%ということ。乳幼児をかかえた講座そのものとしては成功に入ると思う。しかし私はやりとげたという充実感より、ガツガツ来た感じの方が強いようだった。あまりにエネルギーを使い過ぎて疲れたこともある。一般参加者の中から良き仲間の出てくることを願っていたのにアンケートの答の中にある「いろんな意見が聞けてよい刺激になりました。又こういう機会がありましたら声かけて下さい」という以上のものが無かったこともある。でも一番大きな原因は自分達の中にあると思う。すなわち私は乳幼児を抱えてすこしでも生き生きしたいと「あんふあんて」の活動していくうちに、単に育児期の女の助け合いで終わるのではなく、生き方、社会のあり方そのものを問い直していかねばならないようになっていった。そしてこの学級の中で自分の希望や夢を大いに語ったのだと思う。しかし声高らかに語れば語る程(特に一般参加者の反対意見に対抗する為ふだんの自分以上に高い声色で語った)現実とのギャップに悩むし、現実をのり越える事の困難さというものが外にあって行手を妨げているというより自分の心の中にこそあるこ

とがはつきり分って来たからだ。自分は一味も二味も違う主婦なんだと思っていたのに主婦的発想・行動・状況より逃げ出せないことがより明確に分ったというべきかもしれない。この学級は希望すればもう一期継続できるはずであったが、メンバーの気持ちにギャップが生じていたし、各人の事情、かわれる人数の不足さらに乳幼児学級というワタの中でテーマを探ることの困難さを感じてその権利を返上してしまっ

た。私達にはこの学級を契機にグループとしての曲り角が訪れたのだと思う。幸いこの三月より新たに参加した人が三名いて、この方達は婦人民主クラブ横浜支部に御協力いただいて五月十三日に合成洗剤の恐ろしさを訴える映画会を開いたりして積極的な建設的方向へ曲りたいものだ。

自主講座の運営は行政の協力が得られるならば思ったより容易だ。施設の借用を託児要員の確保に行政側の協力があれば、やる気のある五・六人の人で適切なテーマを選べばなんとかなりとげられると思う。私達の記録・プリントが参考になればお貸しします。

あんふあんてのどのグループにも共通して、子供が手を離れ、さて何をするか、どちらへ進んで行くかという時、このあんふあんての絆をどう考え、どう育てていくかということ

=大学での共同保育のころみ=



和光大学（町田市金井町 小田急線鶴川駅下車）で、数人の学生達が集まり、在学生の
子供的面倒をみようという事になったのが、
一九七八年五月でした。

在学中に子供を産み、卒論をかかえた学生（女性）の長男がその発端をつくったというわけです。「とにかくやろう」と、大学のコンバ室を、その都度貸り、必要な用具はカンパでつくり、母親が授業にでている間を、みんなで補って、おむつの交換、授乳、散歩に連れ出す、泣かせる、こちらが遊ばれる、泳がしてしまふ、一緒に眠り込んでしまふ等、そうやっているうちに一年間は過ぎ、母親卒業と同時に、彼も突然（？）来なくなってしまう、取り残されたと実感したのは私の方でした。

自分の都合とあう時、彼とつきあうというやり方で、思い返せば返す程、その想いは強くなります。

そして性徴りもなく、「一人でだめなら、数人居たらさ」と受け取られても仕様がな
状態のまゝ、今年五月、「あんぶあんて」の
会員であり、知人でもある数人の母親達と、
数人の学生達との顔合わせを二度程やった時
点より、「共同保育」が和光の場で始まりま
した。

学生の側では、個々人が「保育」にそれぞれ関わり方を持っていくだろうと、今後に互いのイメージを組みたてるだけで、具体的に共有の基盤を持ち、そこで「共同保育」をやっているという自覚はなく、今回このような形で掲載される事にも、「私は他者に呼びかける事はできない」と、書く事を拒否した人も居ます。そして、その事について異議を唱え話し合うという状況のないまま、行われています。

私はそういつた中で、始まっている事に今は私にとつての共同保育を語る準備をしている所だと判断しています。そう言えてしまうのは、現在の私の生活にその保育についての食い違ひが負担となつてのつかつてきていないと自分で思ひ込めているからだと思つています。

どんな場所にだつて子供等は入り込んでいくし、どんな人達とだつて一緒に生きていくしかないという事を、子供らは、いさぎよく身体ごと「引き受けた」と言っているかの様な動きを見せてしまう私の彼等との居方はあまりにも軽率で、無責任な、とらえ方だと

自分で自分に問うた時、「そんな事ええやないか、一緒に遊ぼう」と、子供たちが私の静止状態をゆさぶり、同時に私を身体ごと動かしてしまいます。

この相手が居るという事によって私が変わり、動くという事実は私を動揺させ、その魅力には圧倒されます。

そして、そのような時、「子供を産んだ事がない」という私の身体が、疑問符だらけの観念の化け物のようなものに見えてきて、逃げだしたくなったものですが、それは人をバカにした話で、「産んだ事がない」という事で、アッサリ逃げだす所などないわけで、そういう私の思いあがった身体とのつきあいはやめにしようと思つています。そうしたら子供と居る事が楽になつたし、私の身体が軽くも感じられたりするのです。

今後、この「誌上」を通していろいろ語つていきたいと思つてます。

本庄



本庄

共同保育を考えたのはいつ頃からだろうか。児童施設勤務の経験などもあり、長女出産以前より、保育園・幼稚園には、不安があった。しかし、長女の成長にともない友達の必要性を感じ迷っていた。そんな時、夫が共同保育をはじめたらと言ひ出し、「仲間がそんなに集まるはずがない」「出産で、はい、止めますではないかげんだし」と、しぶる私に、自宅でするなら、休みは参加するし遠くなら、できる限り送り迎えはすると、毎晩責めたてる。同じ時、あふふんての仲間にも、共同保育を考えている者があり、それではと、重い腰をあげた。そして、和光大学での話がもちあがり、やっとここまでこぎつけた。ところが、最近、夫は、子供は、幼稚園も共同保育もなしで自然に育つのではと言ひ出した。本当に、男とはあてにならない。いずれにせよ、今、私は、共同保育をはじめて良かったと思っている。考えていた以上に、幼稚園に疑問をもち、子育てを我が手にとりもどそうとしている仲間の多い事か。

そんな仲間が集まってきた和光での共同保育も、まだまだ、これから。病氣、その他で仲々全員が集まれない。子育ての実感のない学生達と、どこまで共有できるか。問題は山積み。それでも、大学で共同保育をする良さは、母親、子供以外の第三者がいる事。子供達にとっても、また、母親にとっても新鮮な何かが得られると思う。

とにかく、みんな、がんばりましょう。



娘は三才六ヶ月。一人っ子のせいかもしれないが、私につきまといてゐるくせに友達がいれば遊びに夢中になり、親などまったく眼中にないようです。娘にとって何人かの友達と車の通らない自然の遊び場が、今、最も必要なものだといふ感じがする。けれども子供達だけで遊ばせておくには、不安な点が多すぎる。やはり危険なことへブレイキをかける保育者が必要だ。それもいつも同じ人ばかりでなく時には未婚の女性であったり、時には子供とは、およそ縁のない男であったりしたらどんなに楽しいだろう。もちろん保育者の間で充分な話し合いがあってこそ実現できることだが。そんな意味で、以後の和光での共同保育は安全な遊び場所と多種多様な人間がいて、ユニークなものになりそうだ。大学の中を子連れで歩いていても異様な目つきで見られないし、そこいらを歩いている男子学生が子供達に気軽に声をかけてくれる。そんなあったかい中で子供を遊ばせたらプラスにこそなれマイナスには絶対にならないと確信している

田村

大学に子供が遊びにきたっていいじゃないのと思つて、昨年から保育問題研究会で子供の相手をしてゐるのですが、子供はやはりとても元気があるし、日常のリズムが我々大学生とは違ふので、どちらかというと、子供のリズムにこちらが引っぱられるという感じであります。昨年は子供が一人だったので、子供一人対学生数人の関係は、双方にとってきつかったように思つてゐます。数人の子供が、自分たちのリズムで遊び回つてくれると、学生の方とも、もっといろんな面での関係が作れると考へてます。しかし、今年になつて学外から数人の母親と子供達が大学へ来ることになり、ちよつと、びっくりしてあせつてます。いろんな人と知りあえるのは楽しいけどホモ研ということでの対応が迫られてくるという感じで、あゝ昨年みたいに、のんびりしてられないかな々と、不安もあるわけです。

塩倉

鹽食

押すな押すなの大入満員の幼稚園の実体とは、経営者と化した園長の微笑とともに、現在の子供たちをとりまく状況は、まさにある種の戦慄さえ覚える。私たちが考えすぎなのか、何の疑問も感じず、不当とも思える保育料や入園料、親たちは、かなり無理をしているのが現実ではあるまいか。すべてをさらりと放り出してしまえたら、こんな楽しい事はないのにと、私は子供を幼稚園にやるのをやめました。とにかく集団という数の約束事や年令や、性別といったことにもこだわらず、場に執着する事もなく、子供らしくとか子供のためにとかっていう嘘っぱきのもついやらし

あんふあんてから
あんふあんてへ



私の場合

匿名希望

中絶。私には、関係のない事と思っていたのに。婚前の妊娠でさえ、ものともせず、生んだ私なのに。一年前、私は、リングを入れて、わずかに一回の生理のあと、妊娠してしまっただけ。医者は、おどろき、私は恐怖。生めない。これ以上、生める状態ではない。精神的に、経済的に、今、妊娠を続けられ、私も子もだめになる。そう思う程、当時、つかれて。二人の子、不相应なローンの支払い。不自由な毎日だった。私が一大決心で夫に生みたくない意向を伝えようとした時、夫は私の言葉を待たずに、「生めない。今は生める状態ではない」と言った。同じ気持ちなのに、先に言われると、妙に淋しく悲しかった。しかしその二日後、手術をした。その二日の間、納得しているはずの自分を更に納得させる為、私は大変努力をした。

当日は、夫は無言で見送られ病院へ。数をかぞえているうち、意識がなくなり、知らぬ間に事は終わり、うすく、気付いた時、私の下腹は、リングをさがす、医者の手でかきまわされていた。バッグと下着をかかえ、ベッドへ運ばれ、そのまま半日、うとうと。結局、生理の時、リングは脱落したらしいという事になった。帰りに、なぜか、赤いバラを買う。その夜から、私はねむれなくなった。立てなくなる位、ブランドーを飲んで、ベッドの中では、淋しいと泣く小さな子が、二人の子を連れに来るといふ妄想の為に。泣いて、泣いて、気がいへあど一歩だった。その事はその後、夫も私も口にしなかった。二十才で結婚、出産。姑と同居の私がその同居の間、二年半の間に身に付けた、廻りに波風の立ちそうなる事は一切口に出来ないという愚かな知恵が、私を内側から壊しにかかっていた。二週間後、自発的に精神科へ行く。夫も同行せよという医者の指示で、夫にやっとうち出し同行を求めた。そううつ病と言われ、半年程通院、投薬を受けた。この病氣は一人で直そうとしては、悪化させるだけで、はっぱをかけたたりしてはいけなそう。周りの人が、それを認める事から治療が始まるそう。夫は、初めて私の気持ちと、置かれていた主婦という状況を認め、私のやりたい事をするようにすすめた。自分の好きな事ではなく、私の。とり合えず、私はバドミントンクラブに入った。あれから一年。私は少しずつ変わった。好きな事をする。本当に。土曜の夜のバドミントンが大きな楽しみとなった。泣かない。二人の子を真剣に愛し、育てる。真正面を向いて生きる。そして、あの子の為に、私はもう絶対に子を生まない。しかし、

自分と夫を変えるのに、私は大きな犠牲を払ってしまった。そしてもう一つ失ったもの。私のセックスに対する興味。めんどろでしかたがない。現在の避妊法は、コンドーム、おくれせながら、自分の体のリズムもわかった。あの日から一年たって、失ったもの、得たもの、考えた事、いろいろ。日記のページが、ぐんと増えた。

葛飾区

私一人で「青い地球を守る会」という公害反対運動グループをつくり、合成洗剤追放と共同購入の二面からポチポチやっています。その他に照射ベビーフードの会もやっています。でたいへんですがとてもおもしろい。考えようによっては共同保育「遊び小屋」は保育園も作らず、「青い地球を守る会」もたいした事もできそうもなく「葛飾あんふあんて」としても、まるっきり、ろくなもんになりそうもなく、中途半端な気もしますが、小集団なりに、自分達でやっていると感じもあつて、まあ、そんなもんかなというところ。働く人を横目でみながら、ちっとも金にもならぬ事をしている自分がアホウに見えますが、もう少し子供を育てるおもしろさを味わいたというのが基本方針なので、やれるだけやってみます。なんとなく葛飾が今まで大嫌いだったのに、愛着を持ち出すと、不思議なものです。ニヤッと笑うと、あっちもニヤリと笑い返してくれる様ですね。

あんふあんてに入ってもう少しで一年半になります。おかげですばらしい一年間になりました。

グループだより

★葛飾あんふあんては三月いっぱい解散しました。理由はメンバーの23がいっせいに働き出した事、場所が遠すぎた事などで、みんながまとまって逢うのが不可能になったからです。その時、たまたま新メンバー募集の記事が区報にのり、一ヶ月の準備期間を置いて四月から再スタートしました。旧メンバー二人と新四人ですが、「あずけたい人」という文がけずられて載ったため、出かけるのはゼロか一人位で、子供中心で毎回水元公園で月・金に共同保育をやっています。そして他の関係ない人もまぎって、水曜はテニスクラブ「子連れ狼」となり、子どもそっこのけで楽しんでます。共同保育のグループは「遊び小屋」と名付けました。

★鳥山グループが「まあ」誌の取材をうけ、五月号に掲載されました。発行部数がきわめて少ないらしく、中々手に入らず（出版社より一部だけ送っていただきました）、会員の皆さまの目にふれることもないかと思いましたが……私達の近況ですが、子どものほとんどが幼稚園に入ったこともあって、ちょっぴり気のぬけた感じで、連絡はとりあっています。共同保育は休んでいます。これから先どうするか思案中です。

図書コーナー

△小さな違いと大きな結果V——性の深層
アリス・シュヴァッサー著 重紀書房刊
寺崎あき子訳
著者はドイツの女性ジャーナリストで、ごく普通のくらしをしている婦人たちがインタヴーを通して、現代の女性の性がいかにゆがめられているか、本来どうあるものかを追求した著作です。（新座市）

映画コーナー

「歌う女・歌わない女」という行って来ました。前評判が高かっただけに、もう内容はわかっちゃってるつもりでしたが、やはり観て良かった。フランス映画だからって表面ばかりきれいなベールを被ったお伽話ではないのね。最初はどことなく説明っぽくて気が重かったけれど、ベビーを常に念頭に置いた展開だけに思わずニコッとしたくなる瞬間が多くて、私もその仲間という嬉しさが伝わって来たものです。

個人的偏見からすればボムはやはり天性の閃きをもった女性・憧れの生き方ではあります。スザンヌの不屈の魂、しかも体験を生かした家族計画センターを開くという健気さを見習いたいと思います。結局「歌う女・歌う女」なのよね。大分市

たべものはなし

大学で化学を専攻して、「化学」の恐ろしさを知った。有機化合物は水に溶けない。したがって、体内に入ると排出されずに蓄積される。それは女の場合、胎内の子に直接影響する。あの真黒な石油から作られる有機化合物は、添加物、薬など口の中に入るものだけでも数えきれないほどである。今の世の中、石油からのがれることは不可能である。しかし、娘二人に農薬や化学肥料を使っていない野菜を食べせようと、狭い庭にニンジン、ネギ、しそ、ナス、トマトを作っています。採りたてのサラダ菜にマヨネーズはおいしい。夏には真赤なトマトを食べたい。そして味噌汁の具は毎日採りたての青菜類。しかし、バセリを作りすぎてしまいました。バセリの好きな方に差し上げます。天ぷらにするとおいしいです。あなたも野菜作りやってみませんか。



情報コーナー

・譲ります
引越のため家庭用品・小物類・婦人・紳士服類・アメリカの雑誌他多類を格安にて

・共同保育やりませんか
最近神戸に引越してきました。どなたかいっしょに共同保育をしてみませんか。
当方、2才の男児と10カ月の女児あり

・「女ならやってみな」
全国あちこち上映会(託児室付き)
(仙台) 7月28日(日) 仙台婦人会館

(東京) 8月3日(金) 新宿文化センター

※特別企画「女と子供の夏まつり」アリ
(名古屋) 8月5日(日) 6日(月) 7日(火) 愛知県勤労会館

ウーマンズハウス

(広島) 8月10日(金) 11日(土) 労働会館

(呉) 8月12日(日) 勤労会館

79年女達から
(このスケジュールの続きはP8の中段に)

事務局から

・情報誌の発送のための宛名書きをいっしょな方に手伝っていただいています。武蔵野市のさん、横浜市磯子区のさん、横浜市のさん、横浜市港北区のさん、緑区のさん、横浜市のさん、最近、都立がなくなったので、バトンタッチした藤沢グループの人と、さん、杉並区のさんが少し前出産のためダメなので、この分と最近入会した人の分とあと二・三名手伝いが欲しいのです。今ほとんど郵送してもらっているシステムなので、遠く離れていても大丈夫です。から、どなたか名乗りを上げてくれませんか。

スタッフから

・先月の文中カットは前にも書いていただいた森さん、さんのもので、会員森さんのお母さんまでした。今月の文中カットは、森さん、矢野さん、さんの二人。イラストの大きさがわかりにくかったら、表紙の詩(手がきも可)とイラストだけでも書いてみませんか。ちなみに先月号表紙のタタリとアボロというのはどちらも男性。もちろん夫族の参加も歓迎です。
・そろそろ来期スタッフを募集したいところ。子連れでも日曜の会議に来れる人がヨイナッーなどと思っていますが……。(古知)

スケジュールメモ

6月17日(日)	「小学校ってどんなところ?」会
6月20日(水)	7月号投稿メ切り
6月24日(日)	7月号編集作業会議
6月30日(土)	7月号校正
7月6日(金)	7月号発送
7月8日(日)	8月号編集作業会議
7月18日(水)	8月号投稿メ切り
7月22日(日)	8月号編集作業会議
7月28日(土)	8月号校正
8月3日(金)	8月号発送
7月下旬	夏休みツアー
8月上旬	夏休みツアー子どもキャンプ



★入会申し込みは切手三百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛名は表紙上段に記載。
★参加費は一ヶ月三百円。なるべく六ヶ月以上まとめて郵便局で。払込先は表紙に。特に未納の方は至急払い込みを。
★事務局の電話受付は原則として月1金の11時〜3時です。ので御協力を。